金のかかる遊び

橘小戸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
金のかかる遊び

【Ｎコード】
Ｎ４４６７Ｅ

【作者名】
橘小戸

【あらすじ】
雑感的私小説っぽい感じにしたいけどこれ小説じゃなくてエッセイじゃないのでも会話部分書きたくないという内容

昨今は世相が殺伐としている、昔はよかった、という言説はいつの時代にも流れていて、その通りだとすると世の中はどんどん悪くなっていくはずだが、

少なくとも、カンブリア紀やジュラ紀よりは人間にとって住みやすい世の中になっていると感じる。それは冗談としても、世の中はよくなったり悪くなったりを繰り返して進んでゆくものだと言える。

いつか地球も太陽に呑み込まれて火の海になるという話なので、どうせ消失するものであれば、よくなった悪くなったと、目先の世相を云々するのも近視眼的であろうと思う。

◇　◇　◇

昔は金のかかるあそびをしていたのだが、それは、電車に乗って郊外の町まで行き、適当な駅で降りてそこから当てもなく歩く（缶コーヒーを飲みながら）、というあそびだった。

まず電車代が数千円かかるし、食費、缶コーヒー代も合わせると一日で５０００円は飛ぶと見てよい。金がかかるのでそう頻繁にはできなかった。

遠くの名所に行ったり、旧跡を訪ねたりするのもよいのだろうけど、何も名物もないと思われる住宅地を歩いていても、それなりに面白みがあるものだと感じる。

特に、日曜日の午後の、郊外の住宅地を歩いていると、趣深いものがある。いなたい、と言うのか？簡単に言い表すべきでないけど。

なんでそういうところを歩くのがすきかというと、浮ついた気持ちを抑えることができるからではないかと思う。
郊外の人気のない住宅地を歩いたり、誰もいない駅前のベンチに座って缶コーヒーを飲みつつ空を眺めたり、誰一人としていない公園を散策しつつ立て札を読んだりすると、生産性から遠く隔たった気分になれる。

手入れの行き届いていない団地内の公園、例えば草が伸びていて、遊具はペンキがはげており、誰も居らず、掲示板の張り紙は内容の日付が過ぎている、といった具合のところもよろしい。
そういうところにいると、やる気とか、根性とか、気合とか、前進とか、そういう押し付けがましい雰囲気の対極に位置する気分になれる。

そういうものを目指すためには、日曜午後に電車に乗って郊外に行き、そこらへんを歩いてみるとよい。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4467e/

金のかかる遊び

2011年1月28日08時54分発行